［た　よ　り］

長崎県支部だより

新里　健

長崎県は九州の中でも最西端に位置し，わが国で最も中国大陸に近い地域である．このため歴史的には古代より朝鮮半島を介する中国文化導入の拠点であったし，近世では諸外国の文化や貿易の窓口として重要な地位を占めていた．しかし，現代に至り情報の流入・交通の便・経済活動度など，様々な面で「日本の西の果て」との感は否めず，そのハンディを負う状況に陥っている．

他方，大浦天主堂・グラバー邸などの建築物を始めとする数々の文化財や，歴史により累積された有形無形の遺産を基礎とする特有の文化は，脈々と受け継がれるとともに新たなものを加えて，現代においてなお特異な光彩を放っている．また，近海の豊富な水産物や恵まれた気候がもたらす農業生産物は，伝統により培われた食文化と一体となり，その美味・滋味が引き出されて，全国でも屈指の美食地域としての魅力を放っている．

一方，西洋医学発祥の地として夙にその名声を博してきた長崎ではあるが，日本透析医会の長崎県支部としての設立は4年前の2003年4月で，誕生して年月が浅いこともあり未だ揺籃期の態であって，加入施設数18，会員数19の小さな支部に過ぎない．当県ではすでに約30年前に，長崎大学を中核として学術的活動に重きを置く腎不全対策協会が設立されており，同協会には平成18年末現在，県下のほとんどに相当する約70の施設が加入している．したがって今後の支部の方針としては，その主たる活動分野を透析医療の運営面に絞ることによって互いの協調体制を敷き，同協会の協力を得ながら会員加入の推進を図りたいと考えている．

さて，当支部も昨年になってその活動が徐々にではあるが活性化してきている点も見られる．昨年は，「透析患者の骨病変」と題して，長崎県支部として初めての講演会を和歌山県立医大教授の重松隆先生を講師に招いて10月7日に開催し，各透析施設から約30人のドクターの参加が得られた．当日は日本三大祭りの一つ「長崎くんち」初日にあたり，会に先立って講師自らも「御旅所」へ宮参りされるなど，秋の大祭の華やかな雰囲気のなかで講演会は執り行われた．

さらに，佐世保を中心とした県北地域において，透析施設の災害対策会議が開催された．今後，長崎地区でも同様の会議を行って県北地域と互いの連携を図ってゆく予定としている．加えて，今年は県下地域ごとに災害時連絡システムを構築し，それを纏めて全県下の連絡網として構成するとともに，隣県との協調体制を念頭に置いた後，将来的には九州全県との連携もとって行きたいと考えている．

このほか，九州ブロックでは福岡県支部副会長（日本透析医会常任理事）の隈先生のご発案を得て，年2回を目処に九州各県の代表者連絡会議が開催され，互いの情報交換や交流が密接なものになってきている．本会議はすでに4回実施され，昨年は11月に大分市で開催された九州人工透析研究会の前日に行われて，沖縄県を含めた各県から代表の先生方が参加された．そのなかで災害対策，安全対策，保険問題などについて予定の時間をオーバーして活発な意見交換がなされ

長崎県透析医会会長

た．会議に引き続いて行われた懇親会の席には，大分県名物のふぐ料理が饗され，当日はあいにくの雨模様ではあったが有意義な情報交換と和やかな雰囲気の中に瞬く間に時が流れた．

当会議は各施設間をインターネットメールで繋いだ連絡網などを活用しながら，今後もより密接な連絡体制を堅持し，定期的に継続していくことになっている．

長崎県透析医会役員名簿

平成19年1月現在

役　職	会員氏名	施設名
会　長	新里　健	(医)健昌会　新里ネフロクリニック
副会長	船越　哲	(医)衆和会　桜町クリニック
幹　事	柿添博史	(医)医理会　柿添病院
幹　事	川富正弘	(医)誠医会　川富内科医院
幹　事	丸田直基	長崎市立琴海病院
幹　事	田所正人	長崎市立病院成人病センター
幹　事	原田孝司	長崎大学医学部歯学部附属病院血液浄化療法部
幹　事	錦戸雅春	長崎大学医学部歯学部附属病院血液浄化療法部
幹　事	宮崎正信	(医)宮崎内科医院
監　事	菅　典義	(医)泌尿器科・皮ふ科　菅医院
監　事	松屋福蔵	独立行政法人国立病院機構　長崎医療センター